



長岡まちづくり提言書
～夢と希望が持てるまちを目指して～

2020年12月

一般社団法人 長岡青年会議所

調査者 まちづくり委員会

目次

I はじめに

II 提言

- | | |
|---------------------|------|
| 1. まちについて | P 5 |
| 2. 就職について | P 8 |
| 3. 起業について | P 12 |
| 4. コロナ禍における学生支援について | P 15 |

III おわりに

I はじめに

今年度、一般社団法人長岡青年会議所まちづくり委員会は“若者の減少”という長岡市の問題に対して、若者が“夢と希望が持てるまち長岡”を創造できるように若者の意見を聞き、集めて調査したいと考えました。

本来は長岡の学生を集めた組織を作り、みんなでどうしたら“夢と希望が持てるまち長岡”を創れるのかを考え、組織外からも意見を集める予定でしたが、コロナ禍で学生を集める事ができなくなり“若者の声”を集める事ができなくなったと思っていました。しかし、まちづくり委員会の1人のメンバーの「飲食のバイトも無くなり、さらには緊急事態宣言でGWに地元に戻れなくなった学生に食料を支援したい。」という思いからGW前に第一回食料支援事業を実施し、配布を開始してすぐに100名以上の学生が集まり予定していた数を超え、終了の案内をしてお帰り頂いた学生も多くいました。そこで2週間後に第二回緊急支援事業を行いました。今度は用意した食料が余るという事態になりました。その余った食料は留学生や寮で生活する学生に配布したのですが、2週間で学生の状況が大きく変わっているという事を知りました。

また、この緊急支援事業で食料をお渡しする際にアンケートにご協力頂いたのですが、ここに長岡の学生の本音が記されていて非常に興味深い結果が得られたのです。そこで、集まる事はできなくても“若者の声”を集める方法がある事に気づきました。

新型コロナウイルスの影響で、私達の生活は大きく変わりました。長岡に住む若者の現状を把握し、長岡から若者が離れてしまう原因を探るため、各大学、専門学校に協力を頂きながら、合計3回のまちに関するアンケートを実施しました。本提言書では、それらのアンケート結果をもとに以下を提言致します。

提言内容

- ① 専門業種企業の誘致
- ② 業種別合同企業説明会の実施
- ③ 大型専門店の長岡市への誘致
- ④ 市内に在住する学生への食料支援

アンケート実施内容

上下5%の誤差範囲で調査する際に必要なサンプル数は、母集団が1,000人以上の場合は、370人～380人にアンケートを実施することにより、母集団の人数に関わらず、5%の誤差範囲内で調査を行えるという事から、アンケートを400人にする事为目标数としました。SNSでアンケートを集めるにあたり、ただ答えて下さいだと目標数の回収が難しいかと思い、WEBマネーを抽選で配布する事で目標数の達成を目指しました。アンケートは全てGoogleのアンケートフォームを使用。アンケートの周知は学生のユーザー数が多いTwitterを主に使用し、合わせてInstagram、FacebookなどのSNSも活用しました。また、長岡市内の各大学と専門学校に学生へのメール一斉送信を任意にて依頼しました。

コロナ禍における学生の現状アンケート

実施期間：2020年5月2日 ～ 2020年5月31日

回答数：236件（全二回総数）

対象：長岡市外出身者で長岡市内在住の学生

まちに関する第一回アンケート

実施期間：2020年8月20日 ～ 2020年9月8日

回答数：415件

対象：16歳～39歳の方々

まちに関する第二回アンケート

実施期間：2020年9月23日 ～ 2020年10月4日

回答数：482件

対象：16歳～39歳の方々

まちに関する第三回アンケート

実施期間：2020年10月19日 ～ 2020年10月25日

回答数：456件

対象：16歳～39歳の方々

II 提言

1. 就職について

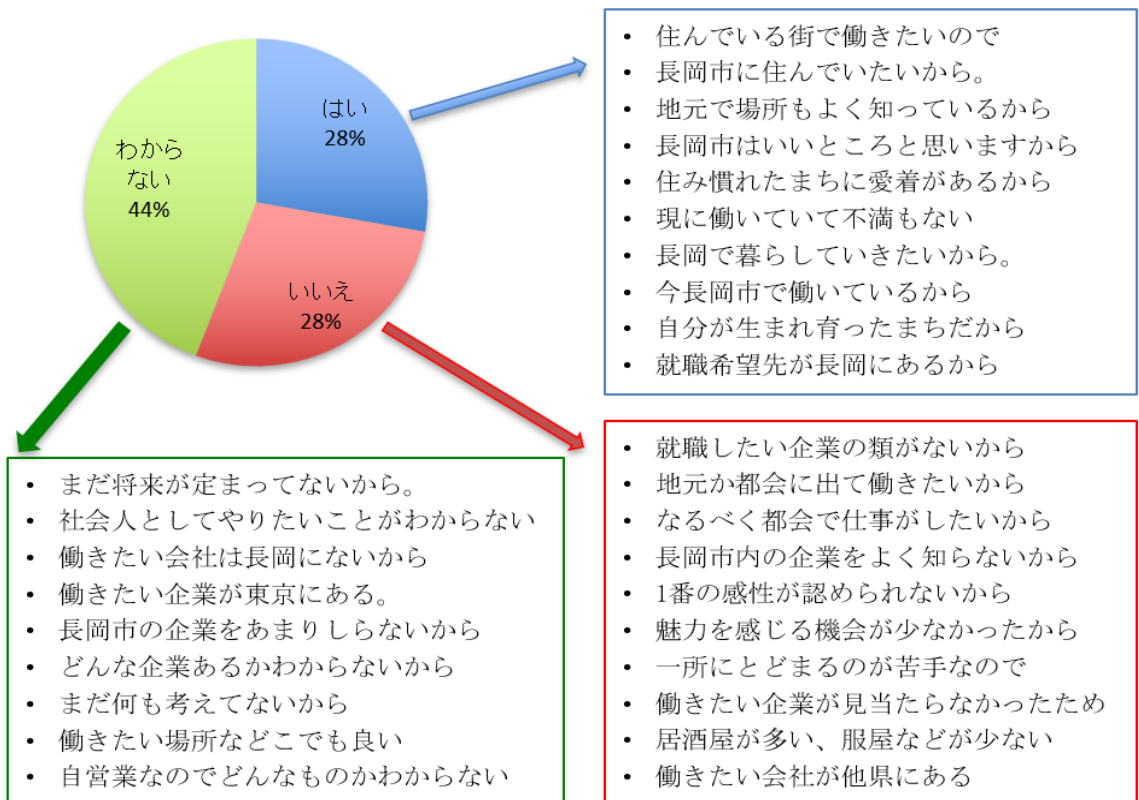
就職についての提言

- ① 専門業種企業の誘致
- ② 業種別合同企業説明会の実施

【背景】

長岡市には現在、4校の大学15校の専門学校、そして高等専門学校が1校存在しており、市外からも多くの若者が長岡市を訪れています。しかし、長岡で学んだ若者は就職先を市外に求めることが多く、人口流失の遠因になっております。今回のアンケート調査では「長岡の企業で働きたいと思えますか？」という問いに対して、「はい」が28%、と最も少ない反面、「わからない」が44%と最も多く、長岡での就職を希望する学生が増える余地がある事がわかりました。4大学15専門学校1高専という地方でも有数の立地を活かすため、上記の2つを提言致します。

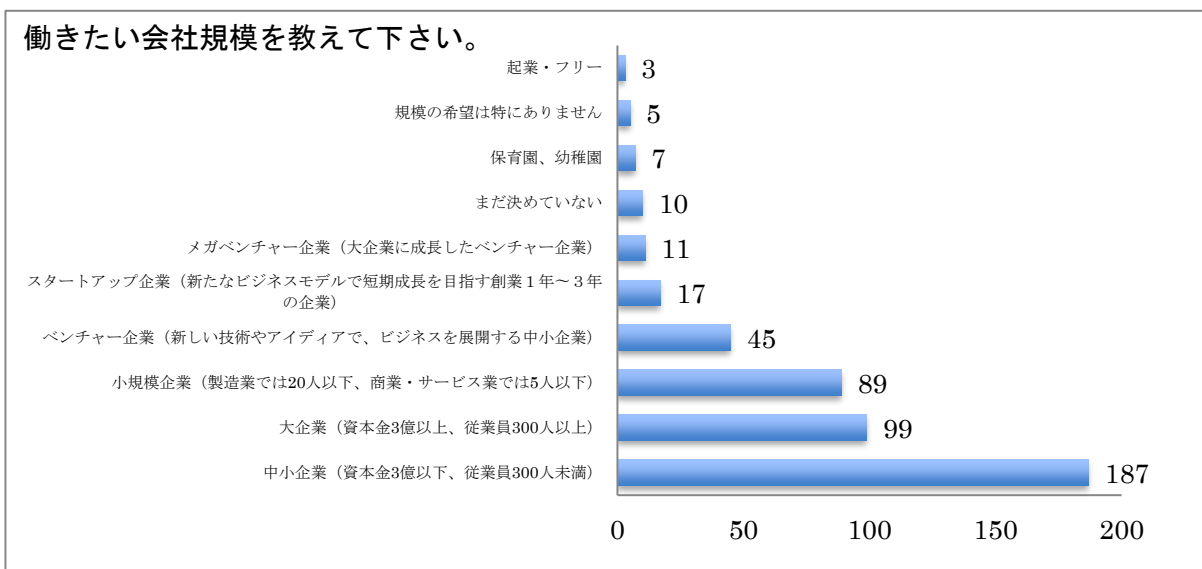
長岡市内の企業で働きたいと思えますか？



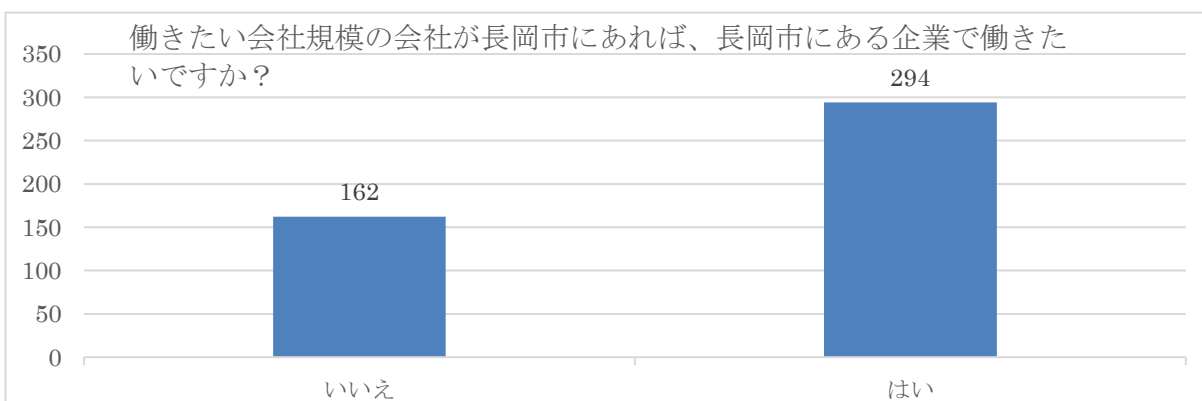
第二回まちに関するアンケート参照

① 専門業種企業の誘致について

第一回アンケートでの「どのような会社があれば長岡で働きたいですか？」という質問では、大半の若者は自身が専攻し勉強する分野に関連した会社を求めている事がわかりました。第二回アンケートでは働きたい会社規模で中小企業が約39%と最も多く、第三回アンケートで、求めている業種が長岡にあれば就職したい若者が77.9%、希望する規模の会社が長岡市にあれば就職したい若者が64.5%と求めている企業が長岡市にあれば市内で働きたいとの回答がいずれも6割を超えていました。以上の結果から、中小規模で市内の大学、専門学校で学んだ事を活かせる専門業種の企業の誘致を提言致します。



第二回まちに関するアンケート参照

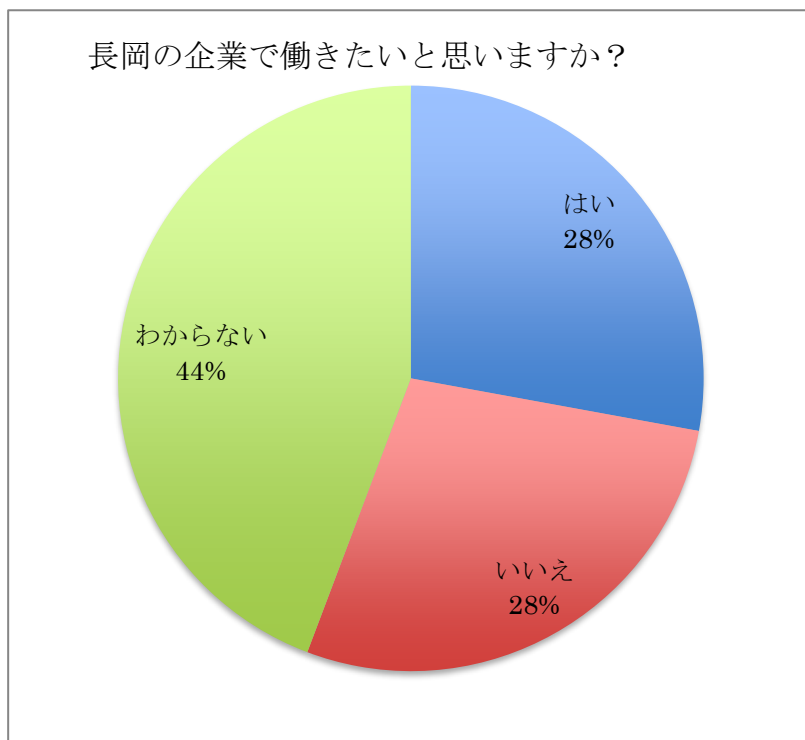


第三回まちに関するアンケート参照

②業種別合同企業説明会の実施について

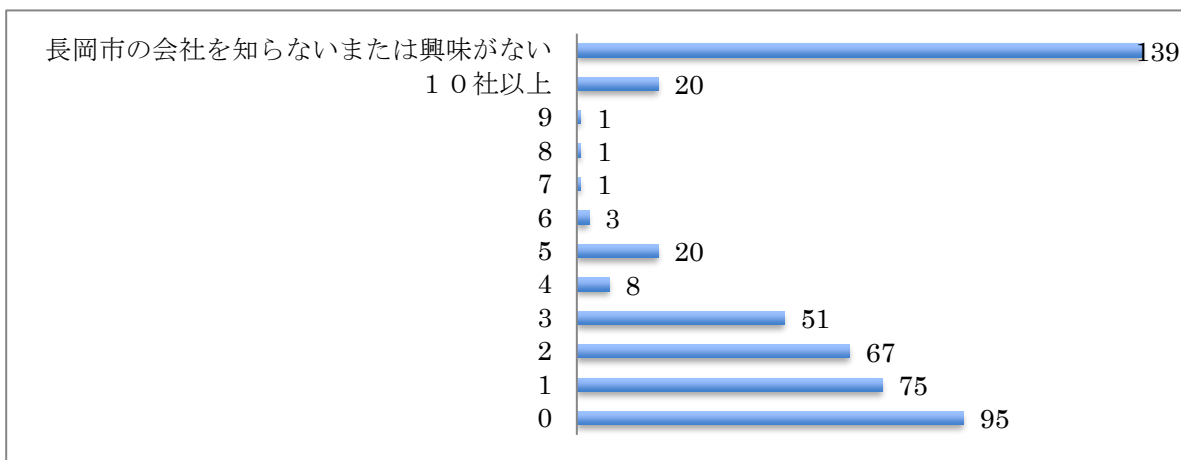
第一回アンケートでの「長岡の企業で働きたいと思いますか？」という質問で、「わからない」というのではないかという疑問に繋がりました。よって、第二回アンケートで「長岡市の誇れる会社は何社ありますか。」という質問をしたところ、「知らない・興味がない」が48%とほぼ半数、3社以下を含めれば88%という結果が判明しました。この結果から長岡の若者は、長岡の企業を知らない現状がある事がわかりました。しかし、第三回アンケートで長岡に働きたい規模の会社があれば働きたい若者が64.5%、長岡に興味がある業種があれば働きたい若者が77.9%、長岡の会社・企業を知る機会が欲しい若者が61.8%という結果が出ており、知らない現状ではあるが、長岡が嫌いなわけではなく知りたいと思っていることもわかりました。学生が就職活動の手段として活用しているものは、ハローワーク、求人サイト、企業のホームページ、学校の職業斡旋等が多く、合同企業説明会を利用する若者も34.4%と少なくない割合であり、さらに、会社の業種別の合同企業説明会に参加したいと思っている若者が40.1%でした。

以上の結果から、若者が長岡の企業に興味を持ち、市内への就職率を改善するためには若者が長岡の企業をまず知る事が大前提であり、そのためには長岡の特色である専門的な学校の多さを活かした業種別の合同企業説明会の必要性を提言致します。



第一回まちに関するアンケート参照

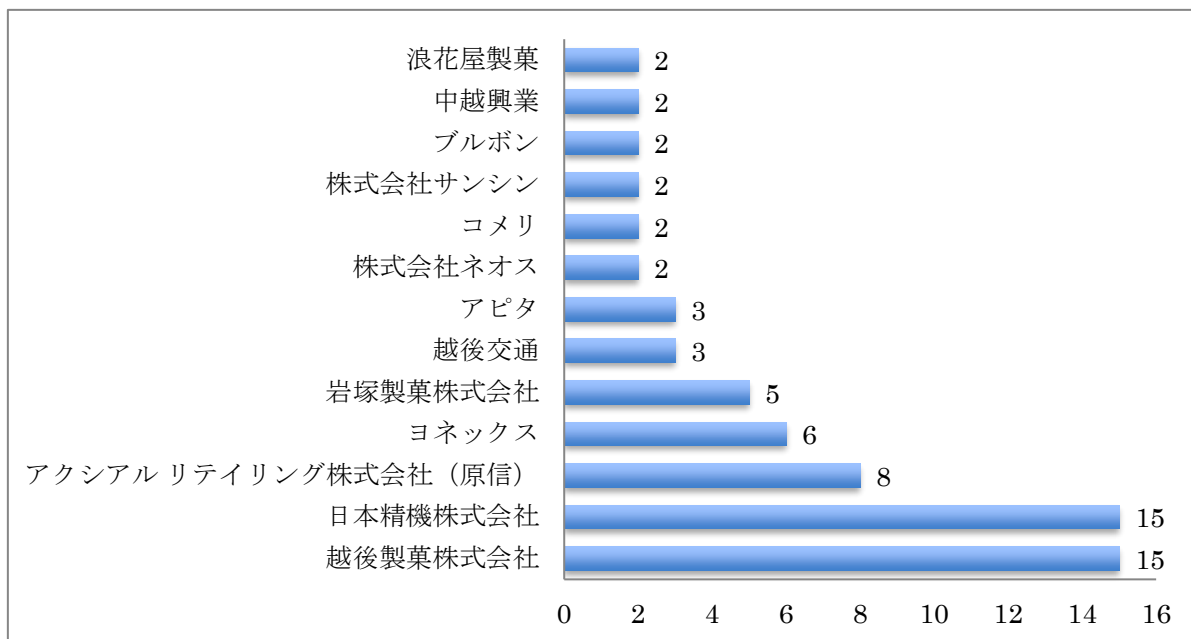
長岡市の誇れる会社（本社が長岡にある）は何社ありますか。



第二回まちに関するアンケート参照

長岡市の誇れる会社があれば最大3つ教えて下さい。

(2以上の回答があったものを記載)



第二回まちに関するアンケート参照

2. 起業について

起業についての提言

①専門業種企業の誘致

【背景】

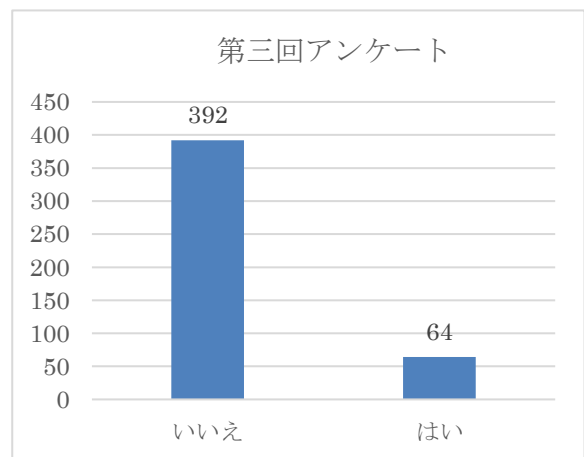
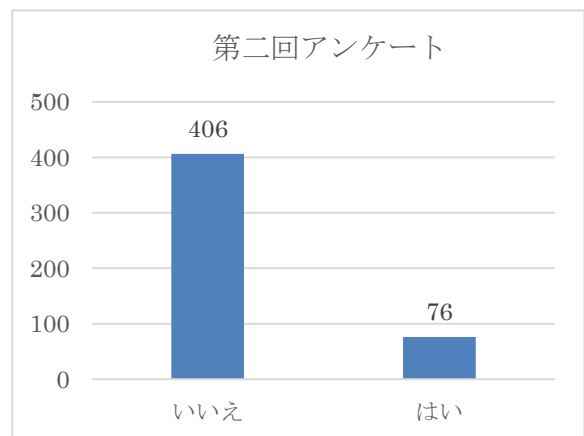
長岡市では起業支援制度や起業に対する補助金制度など起業についての政策を行っているため、若者に対して長岡市での起業に対する考えを提言致します。

①専門業種企業の誘致について

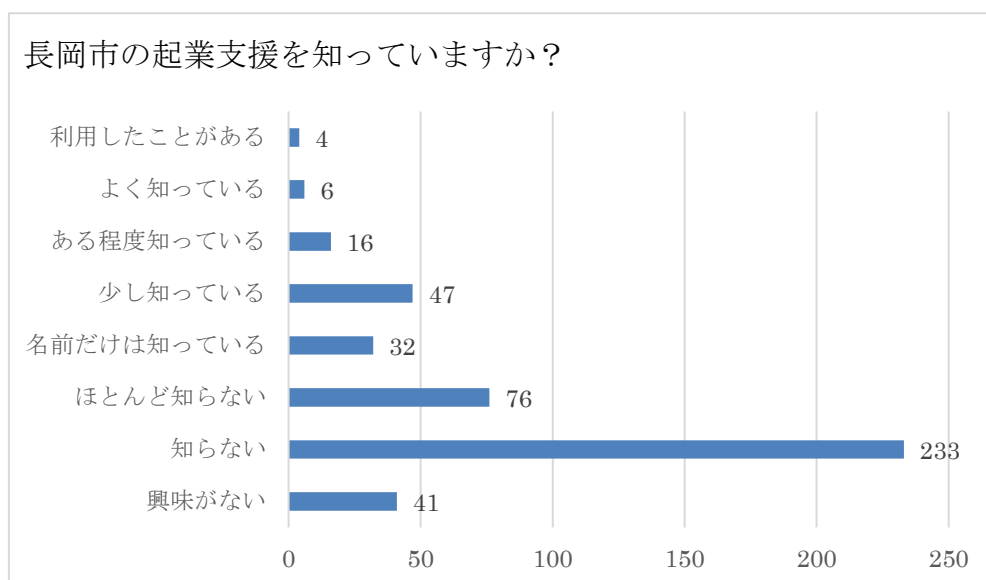
はじめに若者の長岡での起業意思を把握するため、第二回アンケートの調査にて、「長岡で起業したいと思いますか」という質問を行い、「いいえ」が406人、「はい」が76人という結果が出ました。

「はい」と回答した学生は58人いたが、その内15人は公務員を希望しています。将来は起業したいと思っている、又は希望としては起業してみたいが実際はできないという回答である可能性がある。また、「はい」と回答した社会人は21人おり、現在すでに起業して社会人をしている又は今は就職し、経営を学んでこれから起業したいと考えている者も含まれている可能性がある回答となりました。純然たる現在、学生で且つ公務員を希望していない、且つ起業を希望する学生数は40人となりました。

長岡で起業したいと思いますか？

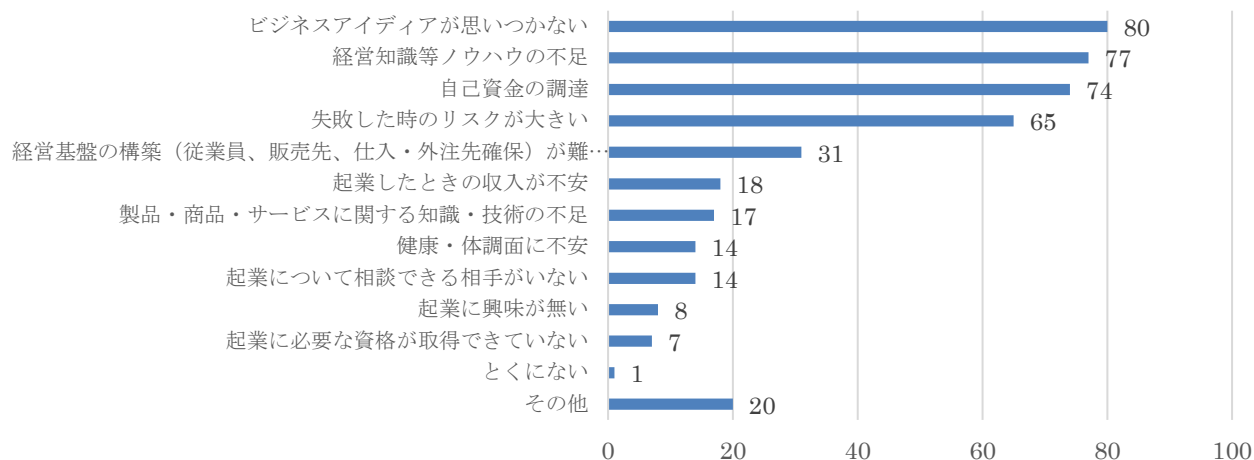


以上の結果を踏まえて、第三回アンケートの調査で、再度「長岡市で起業したいと思いませんか」という質問を行いました。その結果、「いいえ」が392人、「はい」が64人の回答であった。前回のアンケート結果と比較するとやはり80%以上の若者が長岡での起業に否定的であることが裏付けされました。さらに「長岡市で起業するとしたら一番の問題はなんですか」という質問に対しては、「自己資金の調達」、「経営知識等ノウハウの不足」、「ビジネスアイデアが思いつかない」、「失敗した時のリスクが大きい」、「起業したときの収入が不安定」などの回答がそれぞれ順に多かったが、どの回答割合もほぼ横並びであったことから特定の事項に問題があるというわけではなく、起業自体に不安を感じている可能性が大きいと考えられます。また、「長岡市の企業支援を知っていますか」という質問に対して、「ほとんど知らない」、「名前だけは知っている」、「知らない」が合わせて回答の70%以上を占めました。この結果から長岡市の起業支援については学生に対する情報発信のアプローチが弱いもしくは、起業自体に興味がないためそもそも学生が情報を求めていると考えられます。



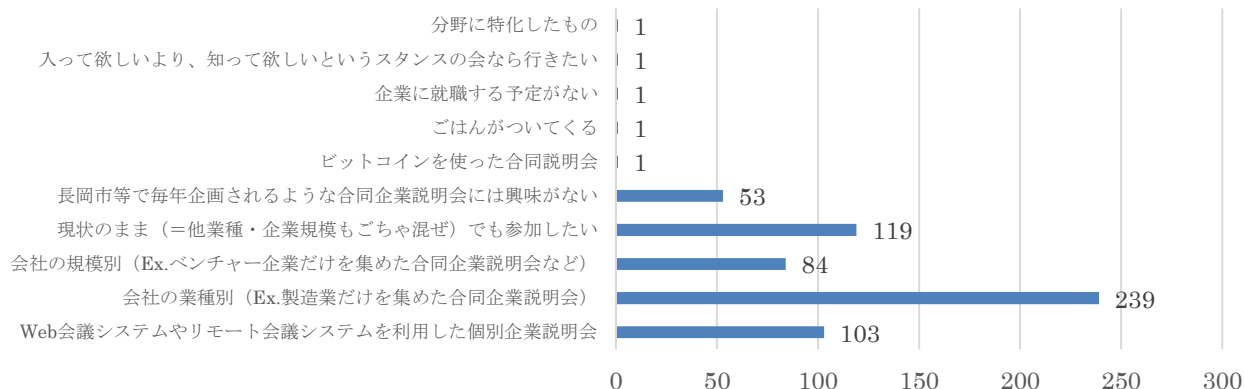
第三回まちに関するアンケート参照

長岡市で起業するとしたら一番の問題はなんですか？
また、起業を考えていない方はその最たる理由を教えてください。



第三回まちに関するアンケート参照

どんな合同説明会なら参加してみたいですか？



第三回まちに関するアンケート参照

以上の結果から、長岡市で起業することはハードルが高いと考えている学生が多いことがわかり、また起業したいと考えている学生たちも大学や専門学校を卒業後はいったん会社へ就職し、起業に対する知識やアイデアを学びたいと考えていることがわかりました。これらから、まずは長岡市にある大学や専門学校の学生が就職したいと思える専門性のある会社を誘致し、就職をした先に起業支援が必要となると考えます。起業支援の前段階として学生が就職したいと思える企業を増やすことが重要であると考えます。

3. まちについて

まちについての提言

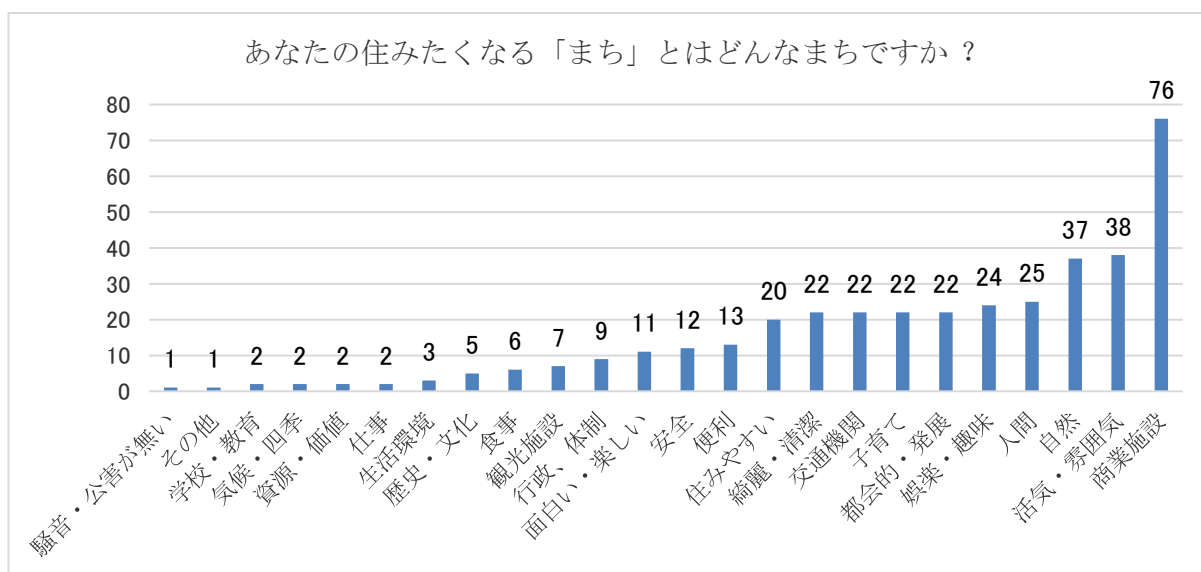
③大型専門店の長岡市への誘致

【背景】

長岡市においても他の地方都市と同様、人口流出の問題がかねてより取り上げられております。私たちはその中でも特に、学生を始めとする若者の流出に焦点を当て、問題点の洗い出しと、対策の検討を実施する為に、アンケートによる若者の意識調査を実施しました。

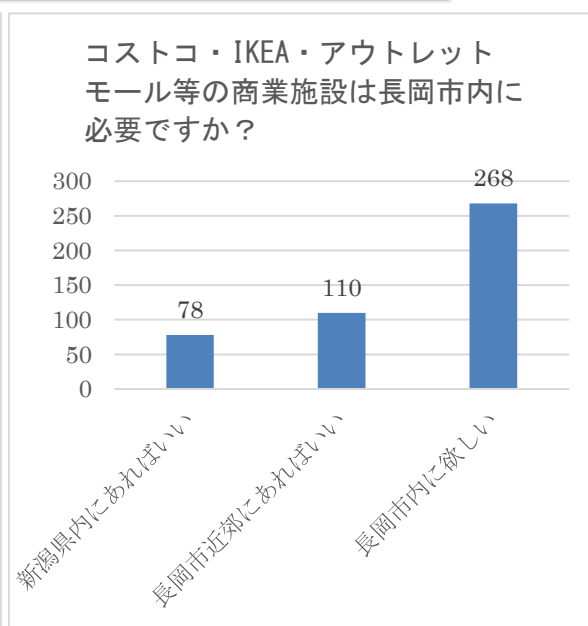
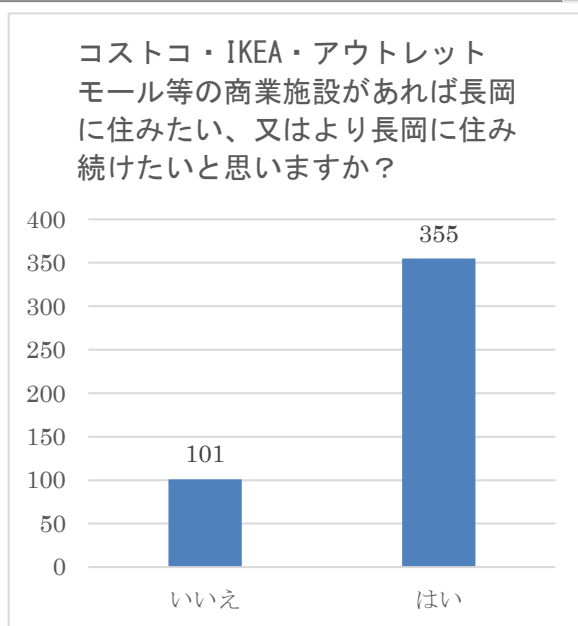
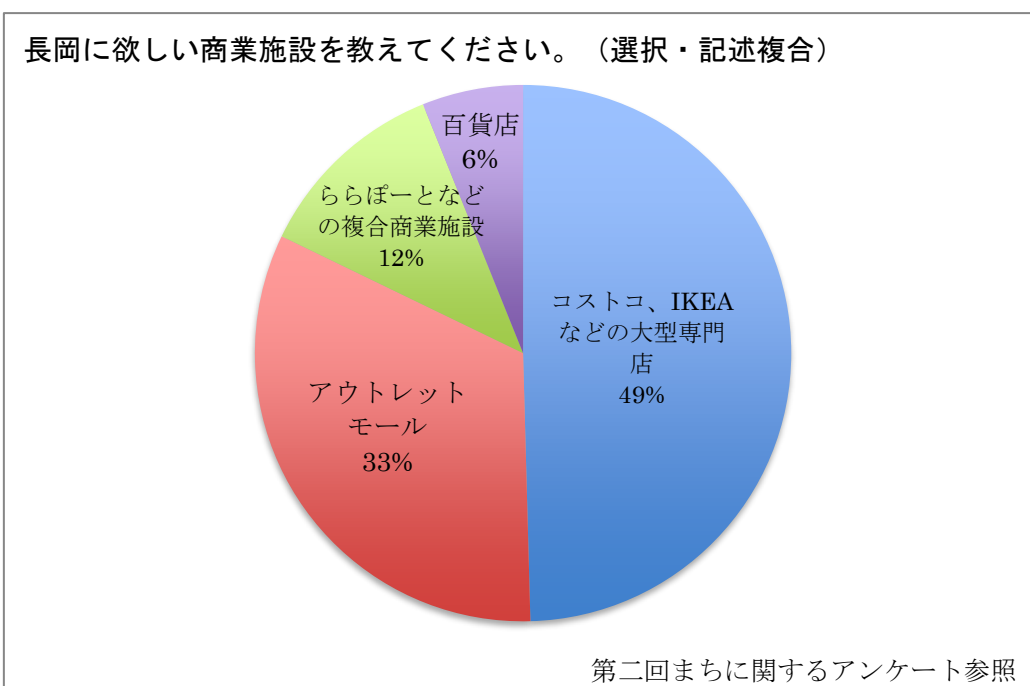
まず彼らがどのようなまちなら住みたいと思うのかを知る為に、「まちに関する第一回アンケート」を実施しました。その結果、商業施設などが充実したまちという回答が、82件/415件、約20%を占めました。またそれ以外でも生活の利便性や充実感を求める声が多数見受けられました。

次の「まちに関する第二回アンケート」では、上記質問を多数意見であった商業施設に絞って掘り下げ具体的に欲しい商業施設を確認しました。結果として、IKEA やコストコなどの大型専門店という回答が228件/482件、約49%、アウトレットモールという回答が151件、約33%という結果となりました。これらの大型専門店は IKEA やコストコ自体ではありませんが、同様の商業施設は新潟県内にあることから、ただ新潟県にはないものに憧れがあり行ってみたい店舗を上げている可能性が想定されました。



第一回まちに関するアンケート参照

そこで、「まちに関する第三回アンケート」にて二回目のアンケートにて欲しいと言われた大型専門店があれば長岡に住み続けたいと思うのかを改めて確認しました。その結果、355件/456件、約78%が長岡市に住み続けたいと回答頂きました。この数値は一回目のアンケートで商業施設が欲しいと回答した人数を大きく上回っており、ただ行ってみたいという憧れではなく、これがあれば長岡市に住みたいと思える魅力として、大型専門店が大きな力を持っていると考えられます。



第三回まちに関するアンケート参照

③大型専門店の長岡市への誘致について

大型の商業施設などの誘致による地域振興は比較的メジャーであり、実施後の地域商店街などを始めとした中心市街地の空洞化といった問題点が長岡市でも想定されます。しかしながら、長岡市は北陸自動車道と関越自動車道が交わる地点で、計画中の物も含め3点のスマートインターチェンジを持つ、県内でも有数のモータリゼーションの進んだ地域です。そのことから、県内に無い新規大型専門店の誘致による、市外・県外からの多く集客が見込めると考えます。そして、長岡市を訪れる人に対して、市内の歴史・文化といった観光資源を活用すれば、地域振興に繋げる事も可能です。もし、そうして長岡市が活気のあるまちとなれば、市内に住む若者たちが長岡に住み続けるきっかけとなるのではないのでしょうか。

以上の事から大型専門店による地域振興は十分検討の余地があると考えます。

4. コロナ禍における学生支援について

コロナ禍における学生支援についての提言 ④市内に在住する学生への食料支援

【背景】

新型コロナウイルスにより生活に困っている長岡に住む学生を支援するため、今年の5月、私達は食料支援を複数回にわたり実施しました。市内の飲食店や卸売り、メーカーから無償もしくは低価格で支援品を提供頂き、合計250セットを学生達に渡しました。受け取った学生からはまちからの支援に感謝する言葉を多く頂きました。しかしながら、支援品には限りがあり、当日渡せない学生も多くいました。また、支援があったことを知らなかった学生も多く、支援期間の終了後に相談がくるケースもありました。

12月現在、海外では再びロックダウンを宣言する国も出てきています。日本国内でも再び新型コロナウイルスの感染拡大が深刻な状況であり、県外移動への制限や外出制限が発令される可能性があります。その際には今回の経験を生かし、より効果的でタイムリーな支援を行う必要があります。そこで下記を提言致します。

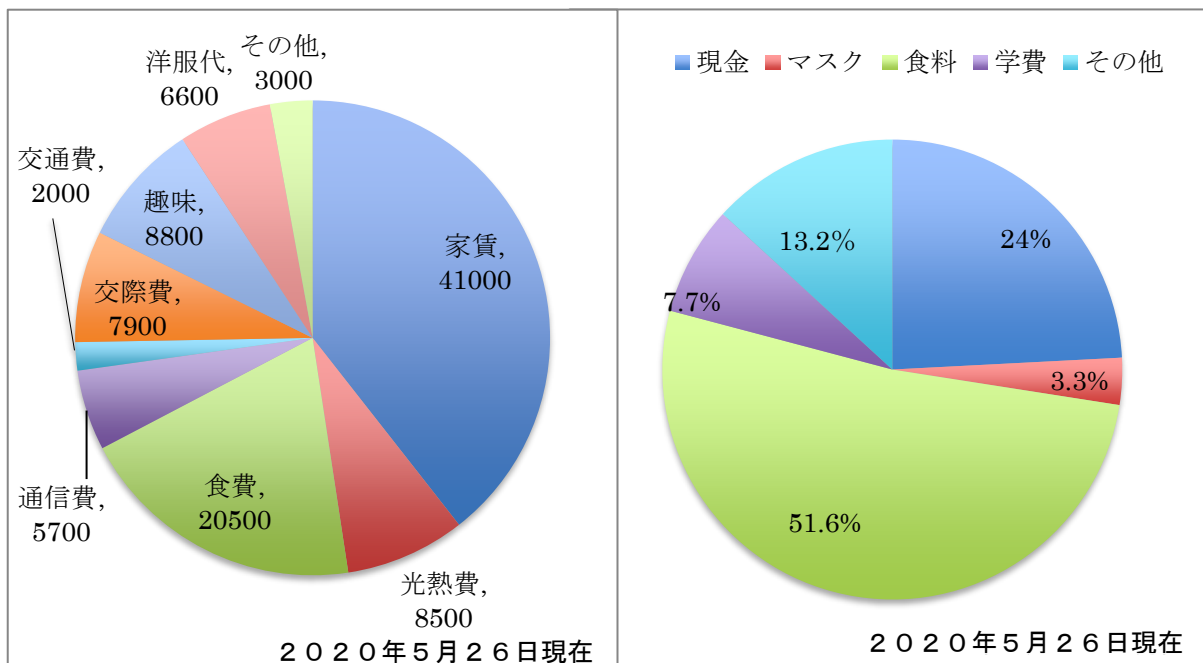
④市内に在住する学生への食料支援について

燕市が東京在住の学生に食料を送ったことを皮切りに長岡市を含め多くの自治体と同じように支援を実施しました。しかしながら、一番身近にいる学生に対しての支援は不十分な状況です。私達が行ったアンケートで長岡の学生に金銭面での状況をヒアリングしたところ、仕送り額はコロナ前の平均50,000円から平均49,000円とほとんど減っていないものの、アルバイト代に関しては、アルバイト先のコスト削減により収入が平均で34,000円減っていることがわかりました。また、出費に関する質問では平均の出費額は104,000円であり、食費がその内の約20%は占めていることがわかりました。加えて、今必要な支援という項目では51%が食料と回答していることから、学生の家計を助ける施策として食料支援が適していると考えられます。

生活費の内訳を教えてください

今、必要な支援は何ですか？

コロナ禍の平均出費額 : 104,000円



第一回緊急支援事業アンケート参照

また、食料支援を実施する際には下記の事項に留意する必要があります。

- 支援する食料を直接渡す場合、各学校からの距離を考慮し、複数設置する
- 留学生は学生寮などに住んでいる場合が多いので、寮単位で渡す
- 学校から生徒にメール配信などで周知してもらう

Ⅲ おわりに

本提言書は、長岡市の“若者の流出”を食い止め、“夢と希望が持てるまち長岡”を創造し若者の定住人口を増やす為にアンケートで“若者の声”を集め、長岡市に必要な事を提言させて頂きました。

- ① 専門業種企業の誘致
- ② 業種別合同企業説明会の実施
- ③ 大型商業施設の長岡市への誘致
- ④ 市内に在住する学生への食料支援

長岡市には長岡技術科学

大学、長岡造形大学等の専門的な大学や、専門学校があり、市外からの学生が非常に多くこの学生達が長岡市に愛着を持って定住してもらえたら定期的に若者の増加が見込めると考えます。そこで、長岡の専門的な大学や専門学校の学生が就職したい専門業種の中小企業や大企業の誘致が今の長岡には一番必要かと思えます。

そして、専門業種企業の誘致をしても長岡市の企業を若者が知らないという現状がアンケート結果からわかりました。長岡市の企業を若者に知ってもらう為の合同企業説明会も就職を希望する目的の会社にしか訪問しないので、企業を知ってもらうには至っていないと考えられます。全業種が一律同日開催で説明会をするより、業種別に合同説明会を開く方が若者の興味を引き、長岡の企業を知ってもらう事ができ、若者の定住人口を増やす起因になると思えます。

また、生活が便利になり、住みやすいまちになるという事で複合大型商業施設が市内にあれば長岡により住みたいというアンケート結果も出ております。

コロナ禍でこの先にまた緊急事態宣言が発令された時などは、県外に出ている長岡市民の学生はもちろんですが、市外から長岡市を選んで住んでくれている学生にも目を向け、目の前にいる学生にも食料支援をして頂けたらと思えます。長岡市から食料支援を受けた学生の中から未来の長岡市を創る若者が生まれるのではないのでしょうか。

こうして、夢を見て長岡の学校を選び、長岡にやってきた若者が、そのまま長岡でやりたい業種に就く流れが作れたら、長岡の定住人口も増えていくと考えます。また、長岡の学生が興味のある業種の会社が沢山長岡にある事を知る機会があり、支援を受けて長岡に恩を感じ長岡で暮らし続ける学生が増えていったら本当に“夢

と希望がもてるまち長岡”になるのではないかと思います。以上の提言を前向きに
考えご検討頂けたら幸いです。よろしくお願ひ致します。

アンケート実施に当たりご協力して頂いた団体

(順不同)

学校法人 中越学園 長岡大学

国立大学法人 長岡技術科学大学

公立大学法人 長岡造形大学

学校法人 長岡総合学園 長岡美容専門学校

学校法人 長岡総合学園 悠久山栄養調理専門学校

学校法人エイシンカレッジ クレアヘアモード専門学校

学校法人エイシンカレッジ 長岡こども福祉カレッジ

学校法人 新潟総合学院 長岡公務員・情報ビジネス専門学校

学校法人 新潟総合学院 長岡こども・医療・介護専門学校